



国有林野  
事業の取組

北海道森林管理局

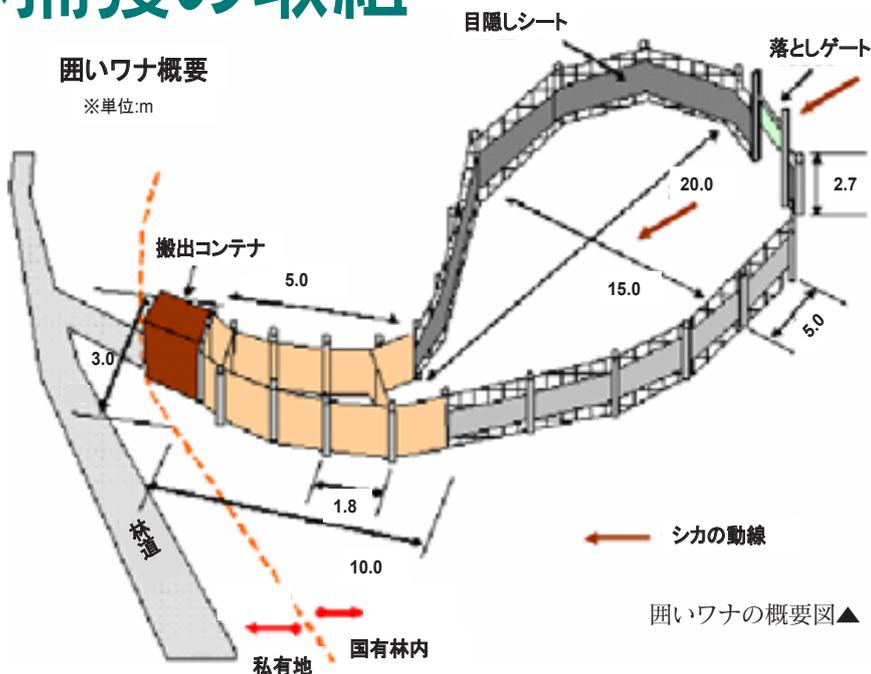


エゾシカの樹皮剥ぎの様子▲

# 囲いワナによる エゾシカの生体捕獲の取組

## 囲いワナ概要

※単位:m



囲いワナの概要図▲

捕獲したエゾシカの追い込み▼

北海道では近年のエゾシカ個体数の増加に伴い、樹木の剥皮被害等が発生しており、森林生態系への影響が懸念されています。また、エゾシカによる農林業被害は、北海道全体で年間約50億5千5百万円(平成21年度)にも達しています。

北海道森林管理局では、これらの被害対策の一環として、囲いワナによる生体捕獲を進めています。



北海道森林管理局では、エゾシカ被害対策の一環として、根釧西部森林管理署管内白糠町左股林道沿いにおいて、個体数調整のため、囲いワナにエサで誘導し、生きたまま捕獲し、食肉等として有効活用する取組を進めています。

白糠町内の森林では、足跡調査から多数のエゾシカの生息が確認されており、エゾシカによる樹木の樹皮剥ぎや稚樹の食害、更には周辺の農作物の食害が発生しています。この地域のエゾシカの多くは春季に北部(阿寒湖方面)と東部(釧路湿原方面)に季節移動することが確認されていますが、夏季でも残留するグループがあり、この地域は一年を通じた生息域になっています。なお、この捕獲は北海道から特別の許可を受けて実施しています。

## 囲いワナの構造と工夫

囲いワナは、アルミパイプと角材で骨を組み、フェンスの高さはシカに飛び越えられないよう2・7mにしていきます。その骨組みは、補強のためのワイヤー入りの漁網と、エゾシカが暴れるのを防止するための目隠し用のブルーシートで覆われています。

囲いワナの入口から20mくらいの所までは、エゾシカにワナであることを



囲いワナ

感じさせないよう円形の広々としたスペースにしており、エゾシカが入るとゲートを閉め、エゾシカを囲いワナの奥にある先端部に追い込み捕獲します。この先端部は先に向かって細く曲がった「象の鼻」と呼ばれる形式になっており、捕獲個体が詰め込まれても強度を保つためコンパネ板で覆っています。

エゾシカは一夫多妻のため、オスの個体数が減っても繁殖力は衰えず、効果的な個体数調整を行うには、メスを捕獲することが重要です。また、角の大きなオスがワナの中で暴れると、メスを傷つけたり、作業員が怪我を負う恐れがあるため、囲いワナの入

口に、幅30cmの板状のスリット型装置(オスフィルター)を設置し、角の大きなオスは入れないよう工夫しました。

## 囲いワナに使用したエサ

エゾシカの嗜好性は地域によって異なるという説があり、この地域ではビートパルプ(サトウダイコン)、乾し草、配合飼料など、ほぼ満遍なく好んで食えることが確認されたため、誘導するエサには安価で入手しやすい乾し草ブロックを使用しました。

また、捕獲までには、①エサを用いてエゾシカを囲いワナに誘引する、②囲いワナ内でエサを食べることに慣れさせる、③多数のエゾシカが囲いワナを出入りするようになる、といった準備段階を経て、捕獲しやすい状況をつくりました。

## 今後の取組

今回の囲いワナでは、平成22年2月から3月にかけて37頭、4月前半で6頭、合わせて43頭を捕獲しました。養鹿施設の協力の下、精肉やソーセージ、缶詰などの食肉や、バッグなどの皮革製品として有効活用するため、捕獲した全てのエゾシカを施設に移送しました。

雪解けが一気に進む4月には、エゾシカの移動範囲が広がり、生息密度が減少するため、捕獲効率は低下しますが、2月から3月にかけてはエサになる笹などが雪に埋もれるため、囲いワナのエサに誘引されやすく、この時期の捕獲が効率的であることを確認しました。

今後は、エゾシカをエサで囲いワナに誘引する範囲の拡大や、囲いワナ周辺からの爆音などによる追い込み等を試みた場合の捕獲効果などの検証を行い、より効果的な個体数調整に向けた取組を進め、農林業被害の軽減や森林生態系の保全につなげて参りたいと考えています。

捕獲実績 (匹数)

	オス	メス	計
2月9日	2	3	5
2月23日	3	7	10
2月24日	0	5	5
3月9日	5	10	15
3月19日	0	2	2
4月7日	1	1	2
4月8日	3	1	4
合計	14	29	43